

産業廃棄物処理業における崩壊・倒壊災害の死傷災害発生事例（2017年）

| 2017年発生月 | 時間 | 死傷災害発生事例 | 年齢 | 労働者規模 |
|----------|-------|---|-------|-------|
| 5 | 10～11 | 運搬先工場にて、運搬してきた廃棄物（生木）を下ろそうとアームロールの後ろ扉を開けた際、積んでいた生木が落下してきて、その下敷きになり負傷した。 | 42～29 | 10～29 |
| 7 | 15～16 | 営業所内の宿舎脱衣所において、風呂の準備を行っていた。すのこを指定の場所へ置くためにすのこを持ち移動中、床が濡れていたこともあり、転倒。後頭部を強打したものである。 | 39～29 | 10～29 |
| 11 | 17～18 | 局内小包エリアにて翌日持ち出し分の荷物を準備する為、荷物を持ち上げ移動しようとしたところ、右肩を脱臼した。仕事終了後、病院を受診した。全治3週間と診断されたが、デスクワーク等の軽作業であれば就業可能である。 | 44～49 | 30～49 |
| 11 | 13～14 | 当社、作業所内にて、作業終了後の床の掃除で廃置の積み上げてある（高さ2.5m位）側で掃いている時廃置が崩れてきて、左足に当たり負傷した。 | 34～29 | 10～29 |
| 12 | 15～16 | 自社管理のビニールハウスで、冬期の積雪対策として、ハウスの骨の補強作業中、ハウスの側で人力掘削をしているとき、盛り上げた土が深さ約60cmで作業している被災者に崩れてきて、右足が埋まった。当日はあまり痛みもなかったため作業を続けて帰宅したが、翌朝に痛みを感じたので病院で調べたところ、右足の骨折が分かった。 | 63～99 | 50～99 |
| 12 | 11～12 | 工場構内（1Fヤード）において、トラックの荷を下ろし、お客様が帰った後、鉄くずを手を持ち置場へ運んでいた際、置場を仕切っているH鋼（高さ30cm×長さ3m、重さ100kg）が足元へ倒れ、右足第二趾の付け根に当たり、受傷した。受傷当日は | 55～ | 10～ |

違和感があったが歩けたため受診しなかったが、後日痛みが発生したため受診した
ものである。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html